

2015年度日本気象学会奨励賞の受賞者決まる

受賞者：實本正樹（京都府立城南菱創高等学校）

研究題目：大気現象の写真・動画を活用した気象学の普及啓発と高等学校気象教育への貢献

選定理由：實本正樹氏は、高等学校教諭として地学教育に携わることから、空の変化を映像として記録するため、京都府宇治市のマンションのベランダから写真や動画撮影を行ってきた。實本氏は、2009年3月に気象予報士の資格を取得しており、その知見を生かして、写真や動画で撮影した現象について、気象庁データ等により解析を行い、その発現状況の解明に努めた。

2009年8月1日11時すぎに京都府宇治市東部で発現した突風（ダウンバースト）時には、冷氣下降流に伴うガストフロントの連続写真撮影を行うとともに、被害域での実地調査を行い、京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー気象観測塔における風向・風速データと気象庁観測資料を使って突風域の広がり、風速の分布、ガストフロントの進行速度を求め、日本気象学会大会〔資料1〕や同関西支部例会〔資料2〕、日本気象予報士会研究成果発表会で発表した。さらに、2011年の3個の台風による木津川増水時や、2013年の台風18号による宇治川増水時においても、映像記録を残すためにただちに現場を訪れ、写真撮影を行い、河川水位変化の解析結果と併せて日本気象学会関西支部年会〔資料3、4〕および日本気象予報士会研究成果発表会で発表した。

また、撮影した動画のうち、風向変化が著しい台風接近時の雲の動き、積乱雲成長の様子、下層の積雲と上層の巻雲、彩雲や虹、落雷などは、在任している高等学校の「地学」の授業において教材として活用しており、生徒たちに身近で起こった大気現象を視覚的に捉えさせる事により、効果的な気象教育を実践してきた。

實本氏が撮影した写真や動画の中には貴重なものも含まれており、2012年8月中旬の落雷動画は、気象庁の防災啓発ビデオ「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！これなら安全！解説編」の中で使用されたほか（気象庁ホームページから閲覧可能）、フジテレビ系列の番組の中でも全国に放映された。このように、實本氏は、得られた研究成果を学会等で積

極的に発表し、専門家の意見を求めるとともに、気象学の普及啓発活動にも貢献している。

さらに實本氏は、地学教育の向上を目的として京都府内の高等学校地学担当教諭等により設立された「京都地学教育研究会」の副会長（事務局長の役割）を2012年4月から務めている。實本氏は、同研究会の研究会誌「京都地学」に調査報告を発表するだけでなく（第29～31号、資料5）、2013年4月から1年半にわたって京都新聞に連載されたコラム「京天と地と人」の編集委員会の中心的存在として、全70回原稿について同研究会メンバーによる執筆陣と新聞社の連絡調整にあたるなど、一般市民への気象知識の普及に大きな役割を果たした。

これら一連の實本氏の活動は、地学教育や防災・減災教育に対する實本氏の強い使命感に基づくものであり、氏の気象知識普及と啓発活動での業績は高く評価される。

以上の理由により、日本気象学会は實本正樹氏に2015年度奨励賞を贈呈するものである。

参考文献

1. 實本正樹, 2011: 京都府宇治市で発生した突風（ダウンバースト）. 日本気象学会2011年度秋季大会講演予稿集, (100), 258.
2. 實本正樹, 2012: 2009年8月1日に京都府宇治市で発生した突風（ダウンバースト）. 日本気象学会関西支部例会講演要旨集, (126), 17-20.
3. 實本正樹, 2012: 2011年に襲った3個の台風による木津川の増水. 日本気象学会関西支部2012年度年会講演予稿集, 13-16.
4. 實本正樹, 2014: 2013年台風第18号に伴う宇治川の増水. 日本気象学会関西支部2014年度年会講演予稿集, 13-16.
5. 實本正樹, 2014: 2013年台風第18号に伴う大雨により蘇った巨椋池. 京都地学, (31), 2-3.

受賞者：サニーエンジェルス（一般社団法人日本気象予報士会）

研究題目：母親を対象とした気象・防災知識普及および科学リテラシー向上への貢献

選定理由：サニーエンジェルス（代表：山本由佳氏）

は、母親向けお天気教室「さいえんすママカフェ」を開催するために集まった日本気象予報士会の有志により構成される日本気象予報士会の団体である[資料1]。サニーエンジェルスでは母親(およびその子ども)を対象とした気象知識・防災知識の教育・普及活動が行われてきたが、一般の気象学の普及啓発活動とは違い、以下のような特徴をもっている。

1. 母親を対象としていること

母親に気象知識・防災知識を教育・普及すれば、家庭内で子どもと父親にも伝わっていくという考えの下に、サニーエンジェルスでは、「空を見上げるお母さんを増やそう」を合言葉に活動してきた。母親を対象とした普及活動は、家庭内で数名に伝わるため効果が高い。イベントを開催するにあたっては、就学前の子どもを抱える母親層を念頭に、乳幼児を同行しての参加もできるような時間や開催場所に配慮した特別プログラムを開催するなどの工夫を行っており、普及啓発の場であることはもとより、孤立育児・密室育児に悩む母親たちの情報交換の場としても好評を得ている。さらに、正しい防災知識の普及手段の一つとして、親しみやすいオリジナルキャラクター「サニーちゃん」を主人公にした紙芝居を独自に制作・実演するなど、受講者から高い評価を得ている。

2. 理科離れの防止

近年の青少年の理科離れは、気象学会でも憂慮されているところであるが、サニーエンジェルスでは、気象学のバックグラウンドを持たない母親を対象に、身近な物を使った実験を行う等の試みを行ってきた。例えば、「さいえんすママカフェ」と銘打った企画では、気圧を五感で感じてもらうためにマシュマロ減圧実験や缶コーヒーを使った実験を行い、身近な素材で気象の基本を理解する試みを行っている。

同企画の参加者からのアンケート結果によれば、2010年からの4年間を通して9割以上の参加者から大変満足・満足との評価を得ている。また「参加して自然や科学・技術に興味が高まったか」については、約94%の参加者から「更に興味を持った」「少し興味を持った」との回答を得ている。

このように、サニーエンジェルスは気象に係わる

楽しい科学体験を提供し、気象学や自然科学への興味を喚起させることにより、学校教育現場ではなく家庭の中から子どもの理科離れを防ぐための活動を進めてきた。

3. 学会等での発表

サニーエンジェルスは、普及活動を行うだけでなく、その成果を日本気象学会の秋季大会スペシャルセッション、気象教育懇談会でも発表してきた[資料2~4]。さらに、科学技術振興機構(JST)主催のサイエンスアゴラでの発表等も行ってきた。

4. テレビ、新聞等の取材対応

母親を対象とした気象教育普及活動は、マスメディアにも注目され、テレビ、新聞等の取材にも対応してきた(取材・メディア出演実績数は2010年度11件、2011年度7件、2012年度9件、2013年度6件の計33件)。こうした放映による視聴者からの反響は大きく、その事が新たなイベントの開催や新規メンバーの参加につながっている。

5. 継続した普及活動の実施

サニーエンジェルスの普及活動は、2010年から継続的に行われてきており、発足以来毎年数十回に及ぶイベントを開催している。またイベントは、首都圏のみならず各地方においても広がりを持って実践されており、2012年には日本気象予報士会石井賞を受賞するなど、その活動は日本気象予報士会でも高く評価されている。

このように、サニーエンジェルスは、母親を対象に気象に係わる科学体験を提供することで、命を守るために必要な気象防災知識の普及啓発に多大な貢献をおこなってきた。

以上の理由により、日本気象学会はサニーエンジェルスに2015年度奨励賞を贈呈するものである。

参考文献

1. サニーエンジェルス ホームページ : <http://sunny-angels.jp/index.html>.
2. 2012年2月 日本気象予報士会第4回研究成果発表会.
3. 2012年5月 日本気象学会2012年度春季大会気象教育懇談会.
4. 2013年11月 日本気象学会2013年度秋季大会スペシャルセッション「気象情報の活用及び気象予報士にできること」.